

譲り葉

ゆづり葉

河合 醉茗

子供たちよ。

これは譲り葉の木です。

この譲り葉は

新しい葉が出来る

入り代ってふるい葉が落ちてしまふのです。

こんなに厚い葉

こんなに大きい葉でも

新しい葉が出来ると無造作に落ちる

新しい葉にいのちを譲って――。

子供たちよ

お前たちは何を欲しがらないでも

凡てのものがお前たちに譲られるのです。

太陽の廻るものは絶えません。

譲られるものは絶えません。

輝ける大都会も

そっくりお前たちが譲り受けるのです。

読みきれないほどの書物も

みんなお前たちの手に受取るのです。

幸福なる子供たちよ

お前たちの手はまだ小さいけれど――。

世のお父さん、お母さんたちは

何一つ持つてゆかない。

みんなお前たちに譲ってゆくために

いのちあるもの、よいもの、美しいものを、

一生懸命に造つてゐます。

ユズリハ(譲り葉)は、初夏、薄黄色の葯(やく、花粉の袋の意)を付けるユズリハ目ユズリハ科ユズリハ属ヒメユズリハ種の常緑高木です。

春、新葉が出ると古葉が落葉する様子が、席を譲るように見えることから命名されました。同様の現象は、別科別属ですがクスノキ(楠)でも見られます。葉は茎先にまとまって付き、赤い葉柄が目立ちます。雌雄異株で、雄花は花弁が無く、初夏に薄黄色の勁だけを葉脇に多数付けて花序を成します。

葯が破れると花粉が出ますが、その時に勁は紫褐色となります。雌株は、花後、房状に香緑色の球形の小さな実をぶらさげ、秋に黒熟し表面が粉をふいたように白くなります。

果実にはアルカロイドが含まれ中毒症状を起こすので食べられません。同科同属に、葉がユズリハより小さい、ヒメユズリハ(姫譲り葉)があります。

今、お前たちは気が付かないけれど
ひとりでのいのちは延びる。
鳥のやうにうたひ、
花のやうに笑つてゐる間に
気が附いてきます。
そしたら子供たちよ。
もう一度譲り葉の木の下に立って
譲り葉を見る時が来るでせう。

